

杉本徳久氏が、唐沢氏とヴィオロンに対して気に入らない記事を同氏の指定する期日までに削除しない限り、厳しい報復行為(内容不明)に出ると恫喝して来たメール

唐沢治様、〇〇様、あなた方の書かれているブログの記事について

差出人: sugimotonorihisa sugimotonorihisa (sugimotonorihisa@gmail.com)

送信日時: 2011 年 12 月 28 日 2:38:23

拝啓、唐沢治様、〇〇(ヴィオロン、ヴィオラ)様、

随想 吉祥寺の森から の杉本徳久です。

杉本氏はこうして何度か、色んな信者を一緒にアドレスに含めまとめて非難と恫喝のメールを送って来たことがあった。杉本氏には、一人一人の信者の書いている内容は、個人的な信念や思想に基づくものでしかなく、削除を要請するにあたっては、直接、書いた個人に当たるべきであるということが、どうしても分からなかったようである。

その上、杉本氏はどうしても、KFC のルーク氏とヴィオロンが連携しているような思い込みから抜け出せないようであった。その思い込みの強烈さは現在に至るまで、ヴィオロンへ宛てた文面の中で文脈と関係なしに唐突にルーク氏の名前を出さずにいられない杉本氏の言説の中に度々見受けられる。だが実際には、杉本氏が以下で示したような唐沢氏の記事のほとんどが、ヴィオロンには全く断りなしに一方的に発表されたものであり、唐沢氏は、ヴィオロン自身に関わる内容でさえ、事前の打ち合わせもなければ、内容についての合意もないまま、一方的に発表して行ったので、筆者自身にとっても、唐沢氏の記事は寝耳に水だったものが非常に多かった。このように、他者が書いたものについてまで、筆者に苦情を言われても大変困るのである。だが、そのことは何度説明しても、杉本氏には理解できない様子である。

さて、以前から削除を依頼しているところの、あなた方が私のことを書かれているブログの記事についてですが、今日現在、いまだ削除されておりません。

唐沢さんがかかれたもの IDLE UTTERANCE * Dr.Luke 的日々のココロ *

<http://www.kingdomfellowship.com/diarypro/diary.cgi?mode=comment&no=1844>

<http://www.kingdomfellowship.com/diarypro/diary.cgi?no=2154>

ヴィオロンさん=〇〇さん がかかれたもの

罪と罰——カルト被害者救済活動はなぜ聖書に反するのか

——ブログ「随想 吉祥寺の森から」の著者 杉本徳久氏による
多くのクリスチャンに対する聖書と法に基づかない虚偽の告発と
カルト被害者救済活動が持つ反聖書的な意義についての考察——

「随想 吉祥寺の森から」とカルト被害者救済活動の指導者たちは
なぜ教会とクリスチャンへの大迫害に及んだのか

<http://exorientetlux.soragoto.net/prestuplenie.htm>

あなた方が創作小説を書かれるならば自由にされればよいことですが、
全く事実に反する事柄を並べ、私の実名、弊社の実名を出して誹謗中傷
を続けることについては到底、市民社会において許容できるものではありません。

杉本氏はまたしてもここで、自分が「市民社会の代表」であるかのように振る舞っている。なぜだ
か、自分の権利が侵害されたから許容できないと言うのではなく、市民社会において許容できな
いのだと、不明な理屈を述べるのである。だが、杉本氏がここで「全く事実に反する事柄」としてい
るものが、具体的に何であるかは、上記の短い引用では、全く根拠が示されていない。杉本氏の
論調は常にこのように、決めつけに基づいた結論だけは大げさに述べ立てても、それを証明する
ための具体的な事実を挙げての中間段階の論証がまるで抜けているのである。

さらに、もし杉本氏が主張した通り、上記記事に書かれている内容が誹謗中傷であったのだとす
れば、杉本氏は坂井氏に対して裁判に及んだのと同じように、唐沢氏に対しても、裁判に及ぶこと
ができたはずであるが、そのような話は一向に耳にしたことがない。それも、杉本氏が騒ぎ立てて
いるような名誉棄損が成立しなかったことの証拠に思われる。実際、杉本氏の記事を読むと、反
対者であれば見境もなく罵倒したり嘲笑したりこき下ろしたりする表現が多く、他者に名誉棄損を
行なっているのは、杉本氏の方であると思われたいのである。

これらの内容のことについては、昨夏、唐沢さんから私に対して
民事提訴の通告がありました。その後、こちらから再三、それを
実行なさるようにと申し上げているにもかかわらず、それをなさらな
い上にこうしたネット上の人権侵害行為を行われることについては
大学教員として基本的な良識が問われることであると思います。

年内に必ずこれらのブログ記事を削除してください。そうしない場合、こちら私の人権と権利を守るために、これ以上事態を放置せずに何らかの厳しい対応をとっていくことにいたします。

これも杉本氏という人の特異な人柄がよく現れている文章である。民事提訴を早くしろと他人にせっついているのである。この提訴に関しては、私が提案したものでもなく、依頼した事実もなく、なぜ民事提訴がなされなかったのかその理由も知らされていない。おそらくは、唐沢氏は「ヴィオロンさんの人権を守るため」という観点から、杉本氏への提訴を予告したのであろうが、何らかの事情で、そのような文脈での提訴は成り立たないことが判明したのではないかと思われるが、それも推測に過ぎないので、事実かどうか分からない。いずれにしても、杉本氏が唐沢氏についてブログに記載している内容は、十分に唐沢氏からの提訴に値すると考えられるので、もし唐沢氏が自分の権利を守るために訴訟を提起していれば、十分にそれは成立し得たろうと思われる。そもそも、杉本氏が予告なくヴィオロンに対する一千件のコメントを伴うバッシング記事をブログに掲載したため、唐沢氏は杉本氏に抗議したのであり、それを「ネット上の人権侵害」と主張することはできない。だが、それを機に、杉本氏は本格的に唐沢氏に対する弾劾に及んで行ったのを見ても、杉本氏は常に一つの事件の中に可能な限り大勢の他人を巻き込もうとしている様子が見受けられる。だが、「厳しい対応をとっていく」という威嚇の割には、実際には、杉本氏が行ったのは、ヴィオロンに対して行われた弱者イジメのような恫喝とネットの暗闇での嫌がらせ工作だけで、唐沢氏に対しても、ヴィオロンに対しても、公の司法の場での対決が成立していない。

〇〇さんの問題については、〇〇さんが「主にある兄弟」として信頼し、霊的な指導を行っている唐沢さんから適切なケアをお願いすると同時に、こうしたブログ記事の削除をするよう、きちんとご指導いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

確かに、ヴィオロンは一時期、唐沢氏の主張に大いに共感し、ブログ記事に引用したりもしており、現在でも、かつて同氏の述べていた事柄に賛同する部分はあるが、反面、賛同できない多くの意見があることも事実である。さらに、唐沢氏がヴィオロンに対して「霊的な指導を行って」いた事実も存在しない。だが、杉本氏はどうしても、ヴィオロンが盲目的に唐沢氏を崇拝しているかのような思い込みから抜け出せないようである。唐沢氏がヴィオロンをケアする立場には全くなかったことも事実であるが、これも杉本氏には理解できないらしい。実際に、ヴィオロンが KFC へ通っていた期間はごく限られており、筆者は唐沢氏の教え子でもなければ、カウンセリングを受けていたわけでもない。にも関わらず、杉本氏は、「ヴィオロンは唐沢氏のケアを受けている」という強烈な思い込みから全く抜け出すことが出来ない。それが事実でないことが本人の申し出によってさえ分からないらしい。「主にある兄弟」という言葉も、杉本氏がヴィオロンと唐沢氏について言及するとき、好んで繰り返す言葉であるが、「主にある兄弟」や「主にある姉妹」は唐沢氏の他にも無数に存在

しており、そもそも兄弟姉妹と呼び合うことは、クリスチャンの間での慣習・決まり文句であり、信者としての互いへの尊重の他には何の特別な意味も持たないのだが、そのことも、杉本氏には理解できない様子である。実際、ヴィオロンは「Sさんへの手紙」のように、杉本氏に対して呼びかける際にも、「兄弟」という言葉を公平に使っているのだが、杉本氏がこうまで唐沢氏に対する呼称だけに拘泥するのは、自分が真の信仰者ではなく、ヴィオロンの兄弟と呼ばれるに値しないという自覚があるためなのだろうかという疑問が生じる。

〇〇さん＝ヴィオロンさんについては、心の状態があまり安定していないように思われますので、あまり刺激したくはありませんが、すでに彼女個人に削除を依頼するメール連絡をしましたが、いまだ何の反応もなく無視されたままで埒が明きませんのでやむを得ず唐沢さんにもご連絡いたしました。

こうして、杉本氏は常に話をどんどん膨らませて行くのである。ヴィオロンに対して要請した要件を唐沢氏に突きつける。唐沢氏の書いた文章のことでヴィオロンを非難する。このように、ある信者に対する不満や、悪印象を、別な信者に向かって述べ立て、両者を一緒くたにして論じ、できる限り多くの人々を、一つの事件に巻き込んで炎上させて行こうとする杉本氏の常套手段が見えて来る。このように、信者の悪口を他の他の信者に向かって吹き込むことによって、信者の印象を貶め、信者同士を分裂させ、軽蔑させ、憎み合わせ、裏切り合わせようとさえ仕向けるのであるから、こんなメールを送信される人々も、全く大変な迷惑であると言いがたい。

重ねて強調いたしますが、認容の限界を超えておりますのでこれ以上、こちらも泣き寝入りをすることはいたしません。市民社会の大人として、適切な対応をさせていただきますよう、宜しくお願いいたします。必ず年内に対応させていただきますように。

ここでも杉本氏は「市民社会の大人」などという言葉を用いる。「市民社会」や「市井の常識」といった言葉も、杉本氏の愛用語である。このように書くことによって、同氏は自分が世間の意見を代表しており、常識人であり、市民として恥ずべきところのない行動をしているという印象を与えたいのである。杉本氏は、相手の主張がなぜ誤っているのかを、きちんとした根拠を提示した上で丁寧に論証しようとせず、その代わりに、常にこうして「世間」や「市民社会」などを引き合いに出しては、「良識的な行動ができていない」と、常識や倫理道德の観点から他人を責めようとするのである。このことは、杉本氏が世間の「空気」だけを根拠に行動しており、きちんとした事実や、聖書の真理に立った議論ができないことを示している。このように常に「世間の常識」を持ち出しては気に入らない信者を非難するのも、村上密氏と共通する手法だと言える。だが、そう言いながら、こうして具体的な根拠も挙げずに、気に入らない記事を名誉棄損と一方的に決めつけ、他者の関係をき

ちんと理解もせずに、勝手な解釈を施して、削除せよと一方的に期日を切って関係者を恫喝して来るような行為は、全く世間の常識にかなったものとは言えない。

「泣き寝入りをしない」と言うのであれば、なぜ杉本氏は、これらの記事内容について司法の場に訴え出なかったのであろうか。杉本氏は、唐沢氏を訴えることも、ヴィオロンを訴えることも、どちらもしなかった。しなかったというより、できなかったのだと思われる。なぜなら、この事件は、そもそもヴィオロンがたった一つのコメントを削除してほしいと杉本氏に要請したことを、杉本氏が逆恨みして、ヴィオロンに対するバッシング記事をブログに掲載したことが始まりであり、根拠なく他者を誹謗中傷していたのは杉本氏であり、こちらはそれに対してやむを得ない反論をしていただけだからである。杉本氏が、誹謗中傷が成立していると公に主張できるだけの十分な根拠が存在していれば、同氏は、違法な反則行為ばかりを使って、人の目に触れないメットの暗闇で他者をメールで恫喝したり、他者のブログに嫌がらせ工作を繰り返すことによって沈黙に追い込んだりする必要はなかったであろう。そのような方法しか、杉本氏に残されていないのは、杉本氏の主張が、思い込みや決めつけに満ちており、決して公の場で(すなわち市井の常識で)一般に正当なものとして認められる内容ではないからである。

180-0001

東京都武蔵野市吉祥寺北町1-5-14

株式会社メディアテラス

杉本徳久

070-50127587